

福岡大学
医学会ニュース

No. 62

福岡大学医学会 福岡大学医学部内

福岡大学病院の新診療棟の開院と 本館の建て替えに向けた取り組み



福岡大学病院長

内藤 正俊

福岡大学病院の新診療棟の開院

福岡大学病院は一九七三年八月四日の開院以来、あたたかい医療の基本理念のもとに診療、教育、研究を行って参りました。が、本年一月四日にはさらに新診療棟を開院いたしました。これは偏に福岡大学医学会の会員を始めとした福岡大学関係の方々と福岡大学病院をご協力して頂いている地域住民の皆様などの御理解とご支援の賜物でございます。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

新診療棟は病院新館(新館)、福大プラザ、福大メディカルホールの総称で旧陸上競技場の跡地に建設されました。新館の建築面積と延床面積はそれぞれ約六、二〇〇㎡、約二九、〇〇〇㎡です。地下一階、地上七階建ての免震構造となっており、地下鉄福大前駅と直結し、福岡大学病院本館(本館)

とは渡り廊下で結ばれています。新館の一階から三階までは天井の高い吹き抜け構造で、空港を思わせるような中庭状の空間になっています。外来は臓器別センター化を基本とし、内科や外科の垣根のないトータルケアを目指しています。予防医学センターではメディカルチェックや健康増進指導を行い、スポーツ科学部や薬学部と連携しながら予防医学を進展させます。各診察室の後方のスタッフ通路は患者動線と分離されています。患者の待合スペースは広く取

ら七階までの病棟には本館から二〇四床が移転しました。一般室は四人部屋で家族控室もあり、患者や家族に優しい設計になっています。ナースステーションには看護師だけでなく薬剤師や管理栄養士等の業務スペースや点滴薬剤準備室も設け、業務効率や安全にも考慮しています。患者の安全と個人情報保護の観点から各階に防犯カメラ及びICカード対応の電気錠を設置しています。新館の概要は下記の通りです。

福大プラザは地下鉄福大前駅と新館とを地下で直結する空間です。天井をガラス張りとし、各種案内や展示スペースを設けています。地下鉄七隈沿線の地域住民や学生との交流の場になればと思っています。福大メディカルホールは新館に隣接する三〇〇席の講演会ホールで、講演会、各種研修会、市民向け公開講座

等にご利用できます。既に昨年四月から講演会ホールの予約受付を福岡大学病院庶務課で開始していますので、是非、ご利用下さい。福大メディカルホールの地下一階にはメデイカルフィットネスセンターを設置しました。心臓疾患患者のリハビリテーションだけでなく、新館の予防医学センターと連携しメタボリック症候群や糖尿病などの生活習慣病の予防のための運動療法等を行っています。福岡大学スポーツ科学部と共同で運営し、トレッドミル、エアロバイク、負荷心電図装置、呼吸ガス測定装置、フロミル等の機器を備えています。安らぎの場として新館と福大メディカルホールの間に中庭を設け、新館の裏側(南側)の庭には季節に合わせた木々や花々を植えています。新館の地下一階にはスターバックスコヒーがありますので、憩いの場所としてご

地下1階	栄養部、軽食喫茶(スターバックスコヒー)、多目的室、カルテ庫、霊安室 施設用度課倉庫、機械室、中央監視室
1階	外来(総合診療部、東洋医学診療部、予防医学センター、運動器・脊椎・脊髄センター) 放射線部、臨床研究支援センター医療安全管理部、地域医療連携室 医事会計、院外処方案内、案内・受診相談、入院受付、初診・再診受付、医事課、ATM、栄養相談室
2階	外来(呼吸器センター、消化器センター、内分泌・糖尿病センター 脳神経センター、腎・泌尿器・膠原病センター) 内視鏡センター、中央採血室、心電図室
3階	外来(小児医療センター、皮膚科・形成外科・美容医療センター ハートセンター、女性診療センター、アイセンター) 遺伝医療室、看護相談室
4階	病棟(総合周産期母子医療センター70床<NICU15床、GCU30床 MFICU7床、産科後方病床18床>)
5階	病棟(小児医療センター38床<小児科、HCU4床>)
6階	病棟(ハートセンター48床<循環器内科、心臓血管外科、CCU6床>)
7階	病棟(消化器センター45床<消化器内科>、特室3床)

福岡大学病院本館の建て替えに向けた取り組み

築後三十七年経っている本館に新診療棟へ移転しない診療科の入院病床

(七一一床)や手術室その他の中央部門が残ります。福岡医学会会員の皆様にも記憶しておられる方が多いと思いますが、本館の老朽化を感じたのは平成十七年三月の福岡県西方沖地震の時です。壁の罅割れ、病棟の壊れた窓ガラスの傍で付む患者さんの姿が目につく付いていました。実際、壁の罅割れと崩落がそれぞれ一四箇所と三箇所まで起こり、壊れた窓ガラスは五十七箇所、約二〇〇枚に達し、水漏れも十一箇所が発生しました。窓ガラスの破損と水漏れのために病室の移動を余儀なくすることが基本となります。そこで平成二十年に業務連携検討委員会を立ち上げ、それぞれの職種の人

が無駄なく連携できる環境作りを始めています。患者を集めている優秀な医師には病院教授や診療教授の称号の付与を開始し、雑用を減らすためのメデイカルクラークも配置しました。これらの対策により昨年の秋には開院後最高の九九・五%の病床稼働率を記録した日が複数あります。他にも周囲の医院や病院との地域医療連携の強化、治験拠点病院として臨床研究への支援体制の強化、脳卒中ケアユニットの設立なども行っています。今後は支出削減に向けた対策としてP D C A サイクルを回した非効率な部門の見直しをより一層行うことが必要だと思っています。

利用ください。地下鉄福大前駅への直結地下通路を整備し、診療費の「はやかけん電子マネー」決済を取り入れました。この地下鉄利用者のアクセスと支払いの利便性を画期的に向上させたことに對し、福岡市交通局から平成二十二年十二月二十八日に表彰されました。

福岡大学病院本館の建て替えに向けた取り組み

収入を増加させるためには入院患者を増やすことです。このためには患者を取り巻く全職員が福岡大学病院の基本理念であるあたたかい医療を誠心誠意効率的に実践することが基本となります。そこで平成二十年に業務連携検討委員会を立ち上げ、それぞれの職種の人

くされた患者さんも二十名に上りました。最大震度七以上の災害が発生した場合、本館からの多くの被災者も新館の外来に収容しなければならぬ事態が想定されます。免震構造を備えた本館の建て替えを軌道に乗せるために病院の経営収支を改善することが喫緊の課題となっています。

新風

平成22年10月1日付けで本学へ赴任、昇格された方に自己紹介をしていただきました。



筑紫病院内分泌・糖尿病内科教授
小林 邦久

福岡大学医学会のみならず、まへへ挨拶申し上げます。
二〇一〇年十月一日付けで福岡大学筑紫病院の内科第二(内分泌・糖尿病内科)教授として赴任いたしました。
自己紹介をいたします。
出身は山口県宇部市で昭和六十三年に九州大学卒業後、九州大学医学部附属病院・九州労災病院で二年間の臨床研修を行いました。その後九州大学医学部附属病院で研究生・医員、そして糸田町立緑ヶ丘病院勤務の後、米国ペイラー医科大学(Lawrence Chan教授・テキサス州ヒューストン)に留学いたしました。帰国後、天神クリニック・九州医療センターに勤務した後、助手として九州大学に帰学し、助教講師を経て、福岡大学に赴任いたしました。

たしました。主な研究分野は糖尿病状態における細胞内および全身の糖代謝・脂質代謝連関と動脈硬化症発症機序に関するものです。今後はこの分野を含めた糖尿病血管合併症の発症・進展機序について広く臨床および基礎研究をおこなっていきたくと考えております。
このたびは科の創設という素晴らしい機会を与えていただき、喜びとともにまた責任も感じております。そのなかで糖尿病・内分泌という枠組みのみにとらわれず、高い倫理観をもって、患者さんの身体的・精神的、そして社会的な面も含めた全人的医療をおこなっていきたくと考えております。また教育面ではチーム医療の中心となるリーダーシップおよびリスクマネージメント能力をもつ次世代の医師を育てていきたくと考えています。

生活習慣の変化とともに激増の一途をたどっている糖尿病は、現在予備軍もあわせて約二二〇万人いるとされ、四疾病五事業のひとつとなつております。糖尿病の発症・重症化の予防のために地域医療連携の発展・充実が必須です。福岡大学筑紫病院は大学病院として全国で初めて地域医療支援病院となつております。私のもうひとつの研究分野である地域医療連携のため医療サービスおよびクリティカルパスを筑紫医療圏において先生方のご指導を仰ぎながら実地臨床に応用していきたいと考えております。福岡県の糖尿病医療において病診連携・病病連携の重要なハブのひとつとなつていくべく、いっそう精進してまいりますので、

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。
産婦人科准教授
辻岡 寛
平成二十二年十月より准教授を拝命いたしました。本学を平成四年に卒業し、産婦人科学教室に入局いたしました。祖父から数えて三代目の産婦人科医です。学生時代は産婦人科に興味はなく、入局は全く考えていませんでした。現副学長の瓦林達比古先生が当時助教として赴任されたばかりで、熱心に勧誘をしていただき、それが入局の決め手になりました。初代教授の白川光一先生は古き良き時代の厳格な先生でしたが、最初から何でもさせていたでいていたような気がしました。平成七年からは大学院へ進学し、当時の生化学第二教室の池原征夫先生のもとで分子細胞生物学のご指導をいただきました。私が最も敬愛し尊敬する先生です。学位取得後、平成十一年からは池原先生のご紹介で米国San DiegoのLa JollaにあるBurnham 研究所(以前はLa Jolla 癌研究所、現在のSanford-Burnham 医学研究所) Jose Luis Millan 先生のもとに留学させていただきました。歓迎会では、研究所の創設者である Diego Millan 先生から、新人の中で唯一(池原研出身者というだけの理由で)特別な賛辞を頂き、大変恐縮したことを覚えております。近隣の研究所には当時九人のノーベ

ル賞受賞者がいました。クリックが存命で、SRI 研究所の駐車場が彼の車のナンバープレートが A T - G C であることを見つけたのは印象深い思い出です。その当時に知り合った研究者の中には現在も素晴らしい研究を続けている人たちがいます。得難い経験だったと思います。大学院在学中に瓦林先生が二代目の教授に就任され、帰国した頃は現産業医大教授の蜂須賀徹先生が助教として活躍されていました。蜂須賀先生には癌の臨床と手術をご指導いただき、結果的にこれが婦人科腫瘍と内視鏡手術を専門とするきっかけになりました。その後はもっぱら臨床ばかりをやっておりましたが、三代目の教授に就任された宮本新吾先生は癌分子標的治療薬の開発に向けて基礎研究と創薬に力を入れておられ、微力ながらも手伝いをさせていただいていました。これらの恩人とも言える先生達から共通して指導していただいたことは、基礎研究と論文業績の重要性でした。自分自身は臨床ばかりやっていて全く教える守っていませんが、その重要性は今になってよくわかるような気がします。産婦人科医の減少が社会現象とされている中、幸運にも私の教室は多くの若い先生達に入局していただきにぎやかな教室です。私自身は少々長く大学にいらしている気がしますが、いまだに手術や急患が大好きで、後輩達と一緒に患者さんを診ている時間が一番楽しい時間です。今後は後輩達の成長の手助けができればと考えています。

救命救急センター准教授
松尾 邦浩
石倉宏泰教授、朔啓二郎教授のご推薦により救命救急センター准教授に昇格させていただきました。松尾邦浩です。
福岡県中間市で育ち、ごきげんよう。で有名な明治学園中学を卒業後、甲子園をわかせた東筑高校を經由して一九八五年に福岡大学を卒業しました。卒業後は先代の荒川規矩男教授が主宰されていた福岡大学医学部第二内科に入局し、以後循環器病学、特に心臓電気生理学、不整脈学の研鑽を積みました。
一九九六年十月から一九九九年三月まで米国Ohio州Cleveland Case Western Reserve University に留学していました。留学中は心房細動中の左右両心房の興奮パターンを三二点多点同時マッピングで解析するという、日本人留学生にしかできないような地道な作業をただひたすら朝から晩まで日の差さない地下室でやる日も来る日も行っていました。留学当初は一秒間の電位記録を解析するのに一週間以上かかっていました。がだんだんと慣れたのとコンピュータが新しくなったのおかげもあって一日で出来るようにはなりました。念のためですが自動解析ではなく手動で解析です。今でも目をつぶると心房細動の電位が目につくほどです。帰国後このまま不整脈の研究を続けていれば良かったのかもしれないが、す

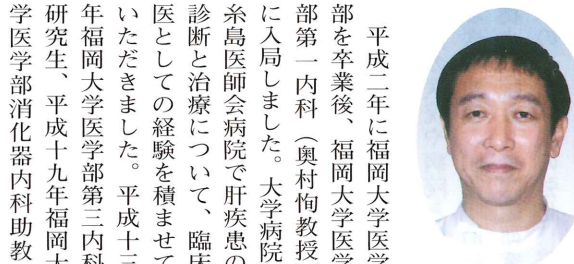
たのかもしれないが、すぐに福岡徳洲会病院に赴任したこともあって冠動脈形成術を行うようになりました。その後、二〇〇一年四月から朔啓二郎教授の御命令で福岡大学病院循環器科に戻り、冠動脈造影グループと不整脈グループの間で生きていたが、二〇〇五年に現在所属している救命救急センターに異動となりました。異動後に始めた A C L S や B L S の心肺蘇生法の普及活動が現在の活動の中心となっています。センターに異動後は循環器系だけでなく外傷などの救急にも参加していますが大変なのは想像のとおりです。全国的にも不整脈を専門にした救急医はほとんどいないらしくこの分野でしばらく生きていくつもりです。今後ともよろしく願っています。

内分泌・糖尿病内科科学講師
野見山 崇
私は昭和四十五年、福岡市博多区に生まれましたが、三歳時に神奈川県に越した後は関東で育ち、平成七年に順天堂大学を卒業しました。当時順天堂大学代謝内分分泌学講座は発足したばかりでしたが、河盛隆造教授の熱の入った教育と医学への探求心に魅せられ、糖尿病を中心とした代謝内分分泌学を自らの専攻に選びました。大学院時代は主に酸化ストレスを中心とした研究をしていましたが、平成十

七年二月から三年半の米国留学中は「糖尿病は血管の病気である」という師匠の格言を遵守し、血管平滑筋細胞を中心とした研究に没頭しました。平成二十二年十月より柳瀬敏彦教授のお力添えにより、当科講師に就任することが出来ました。私が、私と柳瀬先生をめぐり合わせてくれたものは「剣道」でした。私の父と柳瀬先生が九州大学医学部剣道部卒の同門であるという縁を切つ掛けに共通の知人(稲田俊光先生)より御紹介を頂き、私は三十七年の時を経て帰郷することが出来ました。まさに剣の道は人の道、このような有難い巡り合せに感謝しております。私は幼い頃から剣道の稽古をすることで病弱だった幼少期を何とか生き残り、学生時代は大切な友を得、米国留学中も言語や国籍を超えた多くの剣友に巡り会えました。私が専門としている糖尿病の診療は「医体同源」運動も大切な治療です。私自身がそれを遂行すべく、私の聖地福岡で、糖尿病家としてのみなさん剣道家としても修業をしていきたいと思っています。また、臨床研究のみならず基礎研究でも論文が出せる講座をめざし、諸先生方と切磋琢磨していきたいと思ひます。皆様ご指導の程宜しく願ひ致します。

消化器内科科学講師
坂本 雅晴
このたび、向坂彰太郎教授の御推薦により、平成二十二年十月から福岡大学医学部消化器内科講師を拝命いたしました。坂本雅晴と申します。私は、昭和六十三年から消化器内科専門医である前に全身を診察できる内科医になるようにと努力してきました。そして現在、その重要性を実感させていただき、また感謝していただきます。今度は、内科医であることの重要性を私が後輩医師に伝えていきたいと思ひます。また、近年肝臓病においてウイルス性肝炎に対する治療がめざましく進歩しており、将来的には肝硬変から肝臓癌を減少させることが期待されています。したがって、今後は慢性肝炎、肝硬変から肝臓癌への進行をいかに抑えることができるかを目標に診療、臨床研究をさらに目指していきたいと考えています。

これからは、より良い医療を多くの患者さんに提供できるように努力を続けてまいりたいと思ひます。どうぞ宜しくお願いします。



入江 真



坂本 雅晴



野見山 崇



松尾 邦浩



辻岡 寛



坂本 雅晴



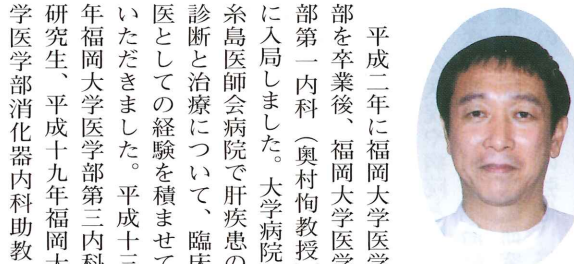
野見山 崇



松尾 邦浩



辻岡 寛



入江 真

呼吸器内科講師 内野 順治



平成二十年福岡大学医学部消化器内科七号講師、平成二十二年向坂彰太郎教授の御推挙により講師へ昇格し現在に至ります。臨床ではウイルス性肝疾患や、アルコール性肝障害の診断、治療。肝細胞癌の局所治療、肝硬変症の治療、門脈圧亢進症に伴う食道胃静脈瘤の治療などを行っています。

二〇一〇年十月より呼吸器内科講師に昇格させていただきました。一九九九年に長崎大学医学部卒業後、九州大学胸部疾患研究施設に入局しました。九州大学病院、九州厚生年金病院、北九州市立医療センターで臨床研修を行いました。二〇〇二年より九州大学大学院医学系学府臓器機能医学専攻博士課程に入学し、アデノウイルスによる肺癌遺伝子治療の基礎研究において学位を取得いたしました。ウイルスを使用した遺伝子治療はレトロウイルスを頻用されますが目的遺伝子を宿主遺伝子内に integrate してしまうことによる危険性が問題視され、当時はより安全性が高いと考えられるアデノウイルスによる治療が進歩し始めた頃でした。ウイルスを扱う実験ですのももちろん十分に取り扱いには注意しておりましたがなぜかよく風邪を引いていたような気がします。その後、九州大学呼吸器科肺癌グループの医員として肺癌化学療法に主に従事いたしました。日本の癌臨床研究グループとしてはJCOG(日本臨床腫瘍研究グループ)やWJOG(西日本がん研究機構)が有名ですが、九州では九州大学が中心となっており立ち上げたLOGICK(九州肺癌研究機構)という臨床試験グループがあり、そこで新規肺癌治療の治験や臨床試験の進め方などについても勉強させていただきました。

この度渡辺憲太郎教授のお計らいにより二〇一〇年四月から当院呼吸器内科にてお世話になっております。現在の肺癌治療に関しては様々な新薬や治療法の開発により日進月歩の分野ではあります。まだまだ満足できる段階ではありません。今後福岡大学病院から基礎研究、臨床研究両方の面で新しい情報を発信できるように努力して参りたいと存じます。よろしくお願ひ申し上げます。



腎臓・膠原病内科講師 笹富 佳江

平成二十年福岡大学医学部消化器内科七号講師、平成二十二年向坂彰太郎教授の御推挙により講師へ昇格し現在に至ります。臨床ではウイルス性肝疾患や、アルコール性肝障害の診断、治療。肝細胞癌の局所治療、肝硬変症の治療、門脈圧亢進症に伴う食道胃静脈瘤の治療などを行っています。

この度渡辺憲太郎教授のお計らいにより二〇一〇年四月から当院呼吸器内科にてお世話になっております。現在の肺癌治療に関しては様々な新薬や治療法の開発により日進月歩の分野ではあります。まだまだ満足できる段階ではありません。今後福岡大学病院から基礎研究、臨床研究両方の面で新しい情報を発信できるように努力して参りたいと存じます。よろしくお願ひ申し上げます。

整形外科講師 佐伯 和彦



この度、内藤正俊教授のご推挙を賜り、講師を拝命いたしました佐伯和彦です。私は平成四年に福岡大学を卒業し、同年に故郷方介教授が主宰されていた整形外科に入局させていただきました。

テニスについて研究を行ない、チームは全人工膝関節置換術時の靱帯バランスで、特に膝内側支持機構の拘縮や解離が膝動揺性に与える影響についての生体力学的研究を行いました。この結果、新しい概念の靱帯や軟部組織解離術を開発でき、現在ではスポーツ活動への確実な早期復帰を目的とした膝関節再建術の開発と変形性膝関節症に対する新しい骨切り術の研究や臨床活動に励んでおります。

最後に、昨今、医師不足が報じられていますが、福岡大学整形外科は志の高い優秀な新人医局員を毎年迎えることができていると、今後も躍進が期待される科であると思います。私自身も、これからも精進してまいりたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひいたします。

脳神経外科講師 上羽 哲也

はじめまして。平成二十年十月一日より福岡大学脳神経外科に入職しました上羽哲也と申します。よろしくお願ひ申し上げます。福岡大学脳神経外科井上亨教授ならびに京都大学脳神経外科宮本享教授のご高配により、福岡大学と京都大学の人事交流を深めるプロジェクトとして、福岡大学脳神経外科に入職させていただきました。

まず自己紹介をさせていただきます。昭和六十三年に京都大学を卒業し、

脳神経外科講師 東 登志夫



平成二十一年十月一日より福岡大学脳神経外科に勤務させていただきます。久留米大学附設中学・高等学校を卒業しました。大学からは関西に参り、昭和六十二年京都大学を卒業、京都大学脳神経外科(菊池晴彦教授)に入局しました。関連病院での研修の後、大学院(一九九一―一九九五)にて脳虚血とストレスタンパク質の研究(京都大学再生医学研究所、細胞機能調節分野、永田和宏教授(現京都産業大学総合生命科学部長)、米国セントルイス、ワシントン大学神経内科(一九九五―一九九八)にて虚血性神経細胞傷害の分子生物学に関する研究(Dennis W. Choi教授)を行いました。平成十年より国立循環器病センター脳神経外科(永田泉部長(現長崎大学教授)、宮本享部長(現京都大学教授)に勤務した後、平成十五年より社会保険小倉記念病院脳神経外科に移り、北九州市で主に脳卒中の外科治療を行ってまいりました。

専門は脳卒中の外科一般ですが、主に脳神経血管内治療(脳のカテーテル治療)を行っています。脳動脈瘤のクランプ手術や頸動脈狭窄症に対するステント留置術等を行います。脳血管内治療は、年々新しいデバイスが使用可能となり、一年前は治療不可能であった疾患が今年治療可能となることもあります。技術革新とともにますます進歩・発展している分野です。井上亨教授が福岡大学に赴任され、「九州初の大型脳卒中センター」構築を計画しておられるとお伺いし、是非とも協力させていただきたいと考えました。関連各位のご協力のおかげで、脳血管内治療の症例数も順調に増加し(平成二十年五十八例、二十一年一〇八例、二十二年一六八例)、平成二十二年四月からは条件を満たした日本脳神経血管内治療学会の認定研修施設(福岡市唯一)となりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

研修医以来の大学病院勤務で、研修医の先生や医学生の方に接しとても新鮮な気分ですが、これまでに「なんとなく、経験的に」自分でわかっていたことをきちんと言葉にして説明することの大切さを痛感し、毎日教科書を読み返しています。素晴らしい教室の一員となることができ幸甚に思います。一例一例丁寧に患者さんを治療してゆき、脳血管内治療チームとして、福岡大学病院やご紹介いただいた先生方の信頼を得られます様に努力させていただきます。よろしくお願ひ致します。



平成二十年福岡大学医学部消化器内科七号講師、平成二十二年向坂彰太郎教授の御推挙により講師へ昇格し現在に至ります。臨床ではウイルス性肝疾患や、アルコール性肝障害の診断、治療。肝細胞癌の局所治療、肝硬変症の治療、門脈圧亢進症に伴う食道胃静脈瘤の治療などを行っています。

この度渡辺憲太郎教授のお計らいにより二〇一〇年四月から当院呼吸器内科にてお世話になっております。現在の肺癌治療に関しては様々な新薬や治療法の開発により日進月歩の分野ではあります。まだまだ満足できる段階ではありません。今後福岡大学病院から基礎研究、臨床研究両方の面で新しい情報を発信できるように努力して参りたいと存じます。よろしくお願ひ申し上げます。

この度、内藤正俊教授のご推挙を賜り、講師を拝命いたしました佐伯和彦です。私は平成四年に福岡大学を卒業し、同年に故郷方介教授が主宰されていた整形外科に入局させていただきました。

テニスについて研究を行ない、チームは全人工膝関節置換術時の靱帯バランスで、特に膝内側支持機構の拘縮や解離が膝動揺性に与える影響についての生体力学的研究を行いました。この結果、新しい概念の靱帯や軟部組織解離術を開発でき、現在ではスポーツ活動への確実な早期復帰を目的とした膝関節再建術の開発と変形性膝関節症に対する新しい骨切り術の研究や臨床活動に励んでおります。

最後に、昨今、医師不足が報じられていますが、福岡大学整形外科は志の高い優秀な新人医局員を毎年迎えることができていると、今後も躍進が期待される科であると思います。私自身も、これからも精進してまいりたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひいたします。

脳神経外科講師 上羽 哲也

はじめまして。平成二十年十月一日より福岡大学脳神経外科に入職しました上羽哲也と申します。よろしくお願ひ申し上げます。福岡大学脳神経外科井上亨教授ならびに京都大学脳神経外科宮本享教授のご高配により、福岡大学と京都大学の人事交流を深めるプロジェクトとして、福岡大学脳神経外科に入職させていただきました。

まず自己紹介をさせていただきます。昭和六十三年に京都大学を卒業し、

脳神経外科講師 東 登志夫

病理学講座は基礎と臨床にまたがる科であり、教育研究と共に、常に各診療科と密接に関わる病理診断を行っています。生検標本の病理診断により、患者さんの治療方針が立てられていきます。切除標本の病理診断では、病気の種類は勿論のこと、進行度も評価され、術後の追加治療を決定する上で大きな役割を果たします。術前に診断困難であった症例や切除範囲の決定に難渋した症例では、術中の病理診断が切除範囲や廓清の程度を決定する上で重要な情報になります。近年の目覚ましい医療の進歩の中、病理診断も各診療科の進歩に並び治療を見据えた専門性の高い診断が望まれます。

教室紹介 病理学

多くの施設では、外科系診療科と同様、病理医が減少している状況にあります。当講座では全国施設に比較し、多彩で充実した病理専門医を有しています。各々が専門分野（脳腫瘍・鍋島、悪性リンパ腫・白血病・竹下、循環器疾患・坂田、骨軟部腫瘍・岩崎、腎疾患・久野、前立腺・溝口、消化管・中山、瀆田、肺・鍋島、瀆崎、生殖器・岩崎、竹下、鍋島、泌尿器・岩崎、溝口、皮膚疾患・岩崎、乳腺・鍋島、竹下、岩崎）をもち、コンサルテーションシステムを構築し、ほぼ全臓器にわたる専門性の高い診断を行っております。一つの施設で、これほどまでにあらゆる分野を専門的に対応できる施設は全国でも類をみ

ません。充実した外科病理に加え、院内外の病理解剖も担っており、全例臨床病理検討会（CPC）をし、複数名による検討を行い生前の診断や治療の評価、死因の解明に貢献しています。また、学生教育においても、全身臓器における疾病の一般通則である病理学総論を基本として、各臓器における専門性を有する教官による各論講義や複数の指導教官による実習指導、CPCへの参加等を行っています。一方、研究でもそれぞれが専門とする臓器を対象に様々な手法で解析、検討が行なわれています。当講座が担っており、また使命は、病理診断のみならず、治療方針への寄与、医療の質の向上、さらには病態の解



文責 瀆田 義浩
竹下 盛重

第63回福岡大学医学会例会 報告

日時／平成23年3月1日(火) 17:00~18:05
場所／医学部臨床大講堂

【進行】集会幹事 三宅 吉博

- 1) 開会の辞 集会幹事 三宅 吉博
- 2) 会長挨拶 医学部長 黒木 政秀
- 3) 新任教授講演 座長…黒木 政秀
講演者…小林 邦久（筑紫病院 内分泌・糖尿病内科教授）
「細胞内トリグリセリド代謝と臓器機能との関連」
- 4) 福岡大学医学紀要37巻優秀論文賞授与式
受賞者：松嶋 圭（精神医学）
福田 佑介（心臓・血管内科学／現在、筑紫病院）
- 5) 受賞論文の要旨講演
講演者…松嶋 圭（代理 尾籠 晃司）座長…西村 良二
「Study on the Effects of Cognitive Behavioral Therapy for Patients with Schizophrenia」
講演者…福田 佑介 座長…朔 啓二郎
「Factors that Predict Target Lesion Revascularization in Patients with Paclitaxel-eluting Stent Implantation」
- 6) 閉会の辞 集会幹事 三宅 吉博



講演された先生方を囲んで
(左から 黒木先生、小林先生、尾籠先生、福田先生、朔先生、三宅先生)

祝 福岡大学医学紀要37巻 優秀論文賞

松嶋 圭：自由が丘病院（精神医学）

Study on the Effects of Cognitive Behavioral Therapy for Patients with Schizophrenia

福田 佑介：心臓・血管内科学

Factors that Predict Target Lesion Revascularization in Patients with Paclitaxel-eluting Stent Implantation

教室紹介 消化器外科学

平成十八年十月一日に福岡大学医学部外科学講座の再編が行われ、当科は山下裕一教授のもと旧第一外科と旧第二外科の消化器外科が合併し、医学部外科学講座消化器外科となりました。この再編の目的は、表示内容と診療内容が合致し分かりやすく、研究・診療の統一による活性化、さらに専門医を目指した研修の効率化を目指しています。外来診療は、月曜日から土曜日まで初診および再診患者さんのすべてを受け付けており、月間の平均外来患者数は約一一〇

〇名です。ベッド数は八十五床、月平均新規入院患者数は約一一〇名で、福岡大学病院では最大の診療科です。手術日は月曜日から金曜日までで、年間約八〇〇例の手術を行っています。当科では、臓器ごとの縦割りチームを編成し専門性を深めるとともに、内視鏡手術や一般外科など横割りの診療も行っています。近年、消化器癌の治療に内視鏡や腹腔鏡手術が積極的に導入され外科手術が多様化しています。食道癌は呼吸器外科と消化器外科の食道を専門とする外科医がチームを組み、手術、化学療法、放射線療法を組み合わせた

集学的治療を行っています。食道癌の内視鏡外科手術は最も得意とするところです。胃癌は内視鏡的粘膜下層切開術（ESD）、腹腔鏡下胃切除術（LADG、LATG）、開腹手術などの種々の治療法を駆使して最適な治療を選択しています。平成二十一年度は五十例の腹腔鏡下胃切除術を施行し、今後増加する術式と思われます。当科の大腸癌手術症例数は九州ではトップクラスであり、EMR、ESD、腹腔鏡下手術、経肛門の内視鏡下マイクロスコープ（TEM）、開腹手術など最先端の治療を行っています。肝臓癌治療はラジオ波焼灼術（RFA）、マイクロ波焼灼術（MCT）、肝切除術および肝移植を行っています。肝切除の安全性は向上しており、今後さらに積極的な治療に取り組

んでいく予定です。胆膵疾患は、当科では診断から治療まで一貫して行えるシステムが整っています。この領域は、取り扱う疾患が幅広く、また高い専門性と治療技術を要求されます。同時に緊急性の高い領域でもあり、迅速な対応ができるよう多くの専門医を配置しております。当科の新しい取り組みとして、地域医療への貢献と若手外科医育成を目的としたAcute Care surgery（ACS…急性期外科診療）を平成二十二年四月より試験的に開始しました。若手医師を中心に外科系ジェネラリストとしての修練を積んでもらいながら、術者教育にも力を入れています。近隣施設からの紹介が増加しており、今後の症例増加が期待されます。研究面では、臓器別に臨

床に直結したプロセスベクトルな研究テーマが与えられています。特に術後QOLを重視した消化管再建術式や安全な肝切除法の工夫、大腸癌化学療法の開発、急性胆道炎のガイドライン検証は教室のメインテーマです。また基礎研究では、肝移植に関する動物実験や癌の転移に関する分子生物学的手法を用いた研究を行っています。今後は学問としての消化器外科学をさらに成就させ、また地域医療のニーズに応えるべくより柔軟で迅速な診療体制を整えていきたいと考えています。

文責 山内 靖

学位取得

次の方は、平成22年9月28日付けで福岡大学より医学博士を授与されました。

論文提出による学位取得者

川西 貴（微生物・免疫学 研究生）

眞栄城兼清（消化器外科学 第4条7号講師）

第37回 医学部慰霊祭

第三十七回福岡大学医学部解剖体慰霊祭は、ご遺族並びにご来賓の方々、本学教職員と学生約四百名が参列し、平成二十二年十月十六日（土）午後二時から福岡斎場において厳粛に執り行われました。今回祀られた霊位は、学生の医学教育の目的で、系統解剖のために献体された二十七柱、病院で死去されて病原因究明のために解剖を御承諾頂いた五十柱、合わせて七十七柱でした。

献灯献花の後、厳粛な雰囲気につつまれて慰霊祭は進行し、黒木政秀医学部長は祭詞の中で、医学の発展のために欠くことのできない解剖にご献体頂いた霊位とご遺族、さらに、ご協力を頂いた各種関係機関に敬意と謝意を表され、ともに「私どもは、日々花を供え、香をたいて七十七柱の科挙に対する貴きご献身を偲び、敬意と感謝の念を表しています。本日、ここに一堂に会し、皆様方の崇高な御遺志を今一度思い起こして、今後益々、勉学、研究に励み、人類の幸福と福祉に貢献できるような努力することをお誓い致します」と新たな誓いを披露されました。

